

平成 29(2017)年度

社会福祉法人 県央福社会 事業報告書

社会福祉法人 県央福社会
理事長 佐瀬 睦夫

() 内数字は回数

<p>①. はじめに</p> <p>昨年度(平成 29 年度)も赤字決算となり、役員始め執行役員・エリアマネジャー・各事業所々長及び職員一同、収入増及び支出削減に取り組んで来たはずでしたが、2 年連続の赤字決算を報告しなければならないことに経営体質が十分機能していなかったことに深くお詫び申し上げます。どこに原因があるのかを早急に究明し一日も早く立て直したいと思えます。また、上半期同様にグループホーム等における重大事故・事件等も下半期も発生しております。法人内に緊張と使命感不足があるのではないかと考えています。</p> <p>また、昨年度から当法人も人材確保に苦慮しております。しかし、29 年度の離職率が多少改善してきております。そんなことも影響してか必要人員を年度末までに確保できました。</p> <p>また、昨年度もイタリア・トリエステへのスタディツアーを平成 30 年 1 月中旬に 12 名の職員が、イタリアは単科精神病院を 1999 年に全廃しました。そんなイタリアに学び、当法人は障がい者の地域生活移行を進めるべく新たな課題も学べたようです。様々な取り組みと課題に向けて、よりしっかりした法人経営と各事業所の所長を中心に職員一同がその事業のニーズに応えるべ努力して行きたいと思っています。</p> <p>利用者さんやご家族に評価される法人経営と各事業所が魅力ある事業展開を今年度の失敗を糧にして努力する所存です。</p>
<p>2. 法人運営に関する事項</p> <p>①平成 29 年度第は、理事会を 7 回開催、評議員会を 2 回開催しました</p> <p>②四役会議 (39)</p> <p>③理事懇談会 (23)</p> <p>④所長宿泊研修会 (1)</p> <p>④法人防災訓練(通所、GH) (2)</p>
<p>3. 事故検証委員会に関する事項</p> <p>①グループホームにおける事故・事件の原因を解明するために、法人内に事故検証委員会を設置し解明に努力し再発を防ぐ努力をしています。(検証委員会 4 回)</p>
<p>4. 法人定例会議に関する事項</p> <p>① 所長会議 (12)、経営企画会議 (12)、エリアマネジャー会議 (12)、執行役員会 (33) 生活介護部会 (8)、生産部会 (10)、就労支援部会 (11)、児童発達支援部会 (12)、看護医療部会 (5)、介護保険事業部会 (12)、精神保健部会 (11)、社会福祉士専門部会 (5)、事務員会議 (11)、実践報告会実行委員会 (1)</p>

5. 採用に関する事項

- ①就職説明会（34回）（参加120名、）
- ②採用試験（20回）（参加75名・内定46名、）
- ③採用面接（20回）
- ④採用内定者合計（46名）
- ④内定者懇談会（2）

6. 新規事業に関する事項

- ①第1・5ゆりの木ホーム2月完成、第2ゆりの木ホームの立替は中止、
- ②グループホーム『(仮称)ルエーダ今田』の3月完成
- ③大和市子育て支援施設のプロポーザル申請。採用されず
- ④グループホーム(仮称)『カモミール横山台』4月完成

7. 外部会議に関する事項

- ①神奈川県保健福祉局県民局幹部意見交換会（1）
- ②藤沢市民間保育園代表者会議（6）
- ③藤沢障害福祉法人協議会（6）
- ③津久井やまゆり園入所者の今後を考える会（3）

8. 内部監査（40）

9. 社会貢献及び国際貢献

- ①社会貢献活動推進委員会（5回）（活動：横浜市寿町24回）
- ②国際貢献委員会（4）（訪問：ベトナム1回、カンボジア1回）

10. その他の業務

- ①就業規則改定プロジェクト（6）

11. 会計監査人に関する事項

- ①事業所監査（10）
- ②法人本部調査（11）
- ③打合せ（5）

12. 採用職員

常勤＝61名　非常勤職員＝235名

13. 退職者

常勤＝38名　非常勤職員＝183名